

♪「三文ピアノの唄」(1) ♪

◆「三文ピアノの唄」は「貧乏人のピアノ」という邦題でも知られています。アコーディオンの別名で、庶民と音楽の関わりを歌った名曲です。7番まである歌詞の1~4番を紹介します。

=1番=

三文ピアノは  
首に下がって  
甘ったるいシャンソン  
トスカニーニは鼻も引っかけないが  
捨てたもんじゃない  
聴けばそれなりのもの  
なんでもござれだよ  
ソナタにジャヴァに  
コンチェルトにポルカ  
音楽が好きなのさ

=4番=

三文ピアノは  
安物おもちゃ  
恋が逃げ去っても  
そいつだけは気にしない  
だってみんな気前が良くて  
たっぷり見返りがあって  
なんでもありだから  
ジュールだって誰だって  
もうおしまいと思っても  
ほらまた別の場所でやり直す

=2番=

三文ピアノは  
春のショパンの調べ  
薄紫色の太陽の下の  
ノジャンのリラの花  
三文ピアノの小唄は  
大好きな人たちのもの  
どんどんいくのさ  
ラヴェルなんかを  
もうおしまいと思っても  
ほらまた始まるよ

□作詞作曲のレオ・フェレは1916年生まれ。長い下積みした後、まずシャンソン「パリ・カナユ」の作者として1952年に評価を得、その2年後の1954年には、この「三文ピアノの唄」のヒットで自身も歌手としての地位を確立しました。フランスのシャンソンの重要人物を10人選べば確実に選ばれる大物で、1993年の没後も名声は揺るぎなく、近年は詩人としても評価されています。(以下次号)

=3番=

三文ピアノは  
腰にまわりついて  
甘ったるいシャンソン  
いつもとても遠くまでよく響く  
だって気前が良くて  
やっぱり帰って来て  
場数を踏んでる  
それにそうでなくちゃ  
気持ちの問題に  
音楽でけりがつかないさ



□レオ・フェレといえは、日本では晩年の風貌で知られていて瘋癲老人風の風狂めいたイメージがあります。

…お知らせ…

「ミュゼットについて」のトークがあります。……………2009年6月21日(日)午後1時からお茶の水谷口楽器で行われる「サンデー・アコーディオン・トーク」で 筆者が「ミュゼットについて」のお話しをします。